

スポーツ活動

世界の人々に新たな感動と豊かな生活を提供するために知恵と情熱を駆使する“感動創造企業”を目指すヤマハ発動機グループは、レースをはじめとするさまざまなスポーツ活動への参加と振興にチャレンジ精神を果敢に発揮し、健全な社会の発展に貢献しています。

レース活動

世界の人々と感動を共有

ヤマハが初めて参戦した二輪レースは、会社が創立したわずか10日後の1955年7月10日に行われた国内最大規模の「富士登山レース」でした。発売されたばかりの『YA-1』を送り込み、初出場ながら初優勝を飾ることで、「挑戦するところ」を示して人々のところを動かしました。以来、ヤマハではレース活動を「世界の人々と感動を共有する場」と位置づけ、先行的な技術の開発・検証を試みるとともに創業精神のチャレンジ・スピリッツを養う重要な企業活動として取り組み続けています。

世界最高峰のモーターサイクルロードレース参戦50周年という記念すべき2011年度も、MotoGP(モト・ジーピー)クラスでヤマハ・ファクトリー・レーシングのJ・ロレンソが年間ランキング2位を飾り、「モトクロス世界選手権」MX1クラスにおいてもモンスターエナジー・ヤマハのG・ポランが最終戦で初参戦・初優勝を果たすなど、その健在ぶりを示しました。





ラグビー

選手と一体となって夢を追う

選手と応援する人々が一体となって情熱・感動を共有する。スポーツ活動には、“感動創造企業”ヤマハが求める理想の姿があります。

ジャパンラグビートップリーグに所属するヤマハ発動機ジュビロは、その姿を具現化するシンボルとして、常に新鮮な感動を与えてくれます。2011年度の得点王・ベストキッカー賞の栄冠に輝き、フルバックとしてベストフィフティーンに選出された五郎丸選手の活躍だけでなく、懸命にプレイする選手を応援するために、ホームスタジアムで行われる試合で1万人以上の観客動員を目標とした「ヤマハスタジアム満杯プロジェクト」を立ち上げたり、地域の人々へのPR活動やファンクラブの組織化などを積極的に推進した当社社員の試みは、感動を共有する場を一体となって生み出すヤマハラしさが最大限に発揮された瞬間といえます。

スポーツ振興

チャレンジ精神を次世代に継承

ヤマハ発動機グループは、創立50周年事業の一環として2006年11月に公益財団法人ヤマハ発動機スポーツ振興財団を設立し、スポーツ分野における世界に飛ばたく逞しい人材の育成を目指すスポーツチャレンジ助成事業や、健全な子どもたちの育成を目指すスポーツ振興支援事業、スポーツを通じた心豊かな社会づくりを目指すスポーツ文化・啓発事業を通じて、夢を持つことの素晴らしさや挑戦することの尊さを伝え続けています。

「YMFS スポーツチャレンジ体験・研究助成」
「YMFS 国際スポーツ奨学金」
平成23年度(第5期生)助成対象者および奨学生

